

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1270500760		
法人名	有限会社 錦秋会		
事業所名	グループホーム木かげ (そよかぜユニット)		
所在地	千葉県千葉市緑区土気町1500-1		
自己評価作成日	平成25年1月31日	評価結果市町村受理日	平成25年4月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所
所在地	千葉県千葉市稲毛区園生1107-7
訪問調査日	平成25年2月25日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>入居者さんの意思(想い)を大切にしています。地域の方との交流を大切にし、顔見知りの関係を築けていると思います。入居者さんはもちろんですが、ご家族さんからも「木かげで良かった」と言って頂けるホームを目指しています。私達の理念は「笑う門には福来る」です。</p>
--

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>「笑う門には福来る」の理念はTシャツにするなど、理念が浸透するように工夫している。理念自体も分かりやすいので、職員が共有・実践していることが伺える。利用者も職員も地域に積極的に出ており、関係性ができている。地域の「サロン」に出かけたり、音楽フェスタで歌を披露したり、雪が降った時には管理者が積極的に周辺道路の雪かきをするなどしている。地域の人から、ボランティアグループを組織化して、災害時などの「お助け会」を作ってはどうかと提案があった。実現が待たれる。</p>
--

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「笑う門には福来る」の事業所理念を掲げ、入居者さんが笑顔で過ごせるような環境を作るようにしている。ボランティアや中学生の職場体験などを受け入れている。	理念を印刷したTシャツを作るなど、理念が自然に職員に浸透するよう工夫している。分かりやすい理念であり、職員間で共有、実践されていることが伺えた。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所の方が将棋や尺八演奏に来てくれている。自治会館で行われる敬老会、クリスマス会、サロンなどに入居者さんと共に職員も参加している。	民生委員はホームをしばしば訪ねてくれる。利用者は地域の役員で立ち上げた「サロン」の行事に参加する。地域の音楽フェスタで歌を発表するなど、積極的に地域に出ている。散歩は日常的に行っており、向かいのコンビニなどにも買い物に行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	2か月に1度、木かげ新聞を発行し農協やコンビニなどに掲示させていただいている。中学生の職場体験を通し、認知症の方の理解や支援方法を伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	管理者が定期的に行っている。	2ヶ月に1回、定期的に開催している。パーベキュー大会やクリスマス会など、イベントと同日に設定することで、多くの家族の参加を得て、開催することができた実績がある。	まだ市町村からの参加が得られていない。4月の会議には地域包括支援センターの出席が得られるかもしれない。引き続き、行政への働きかけが期待される。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	管理者が連絡を密に行っている。	日頃から、困ったことなど、相談ごとについては気軽に聞ける関係性ができている。今後も、ホームの実情などを積極的に伝えていくとよいと思われる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての勉強会を行っている。	ホームでは薬をできるだけ減らしたいと考えており、医師に相談しながら取り組んでいる。玄関の施錠もしていないので、出ていく人がいるときは呼びかけでお茶を飲んだり、一緒に一回りしている。また、職員が思わず言葉で制止してしまった時は管理者、主任がその場で注意している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	スタッフ同士で声を掛け合ったり、勉強会を行っている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者や職員で話し合いをしている。スタッフは必要に応じて自分でも調べたりして勉強をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には、ご本人・ご家族に十分説明している。必要時には管理者と相談しご家族へ説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	可能な限りご家族に参加して頂き、ケース会議を定期的に行っている。日ごろの生活の中で入居者さんに、面会やイベントの際にご家族の要望や意見などを聞かせて頂いて運営に反映させている。	家族の来訪時を捉え、意見を聞くようにしている、また、玄関にはアンケートボックスと記入用紙を設置し、意見が出た時は、どのように対応したか結果まで含めて掲示している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者や管理者が状況を見たり、全職員の意見や提案を聞く機会を設けて反映させている。	管理者、主任は職員から意見が出やすいようなホームづくりに努めている。また、オーナーも現場の意見をよく聞いて検討してくれる。職員会議で出た意見を反映させて、一日の流れを変更した例もある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者や管理者が状況を見たり、全職員の意見や提案を聞く機会を設けて相談にのってくれたり職場環境・条件の整備に努めてくれている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に勉強会を行ったり、法人内外の勉強会・研修などに行く機会を作ってくれている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県や市で行っている研修等に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを導入する前に面談を行ったり、日頃の様子から察したり、要望を伺って、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを導入する段階で面談を行って、ご家族等が困っていることや要望を伺いながら、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを導入する段階で面談を行って、本人とご家族が必要としている支援を見極め、他のサービス利用も視野に入れ対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者さんの出来ることを一緒にお手伝いして頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月の入居者さんの様子を手紙や電話で報告させて頂いたり、ご家族と入居者さんの絆を大切にしながらご家族の意見を伺いながら共に本人を支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	手紙を出したり、面会に来て頂いている。	ある利用者には故郷の知人が毎年柿を送ってくれており、お礼の電話をかける際の支援をしている。近所の友人が遊びに来たり、行きつけの床屋に通う人もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う入居者さん同士で過ごして頂いたり、必要に応じスタッフが間に入らせて頂いている。食事の際に、他の入居者さんに傍に来て頂いて一緒に声掛けや水分補給や食事の介助をお手伝いして頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	BBQ大会やクリスマス会などのイベントに参加していただいた際、ご家族の近況などを伺っている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	把握し、本人のしたいことなどを行えるように考え支援している。	職員が利用者とお茶の時間や一対一での入浴時などに聞いた事を、ケアプランに反映している。把握した思いや意向はケア会議などで職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に生活歴などの情報を早めに頂き共有把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子の中から細かい情報を得、把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	特段代わりがない場合は3ヶ月から半年に一度ケース会議を行い、モニタリングをしケアプランの作成をしている。	アセスメントを6か月に1度取っている。ケース会議は3か月から6か月に1回、また必要に応じて随時開催し、職員の意見を聞いて、介護計画に反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録に残し職員間で情報の共有が出来るようユニットノートに記載し、実践に勤めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者さんご家族の要望を伺ったり、その方に合った方法で行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コンビニや農協への買い物へ行ったり等入居者さんそれぞれに合った支援をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医について契約時ご家族に確認している。月に一度の定期受診。定期受診以外でも異常時には主治医に相談できている。	入居時に家族などに主治医をどうするか意向を聞いている。ホームの協力医は認知症専門医で、緊急時も携帯で対応してくれる。専門医受診は家族か職員が同行している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	小まめに相談し、支援できている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医やご家族と行っている。地域医療連携シートの活用。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医・ご家族・事業所との話し合いで、支援できている。	段階的に家族や主治医と話し合いながら対応しており、この1年で二人を看取った。お酒が好きだった利用者は最後までスプーンでお酒を味わい、管理者の腕の中で亡くなり、他の利用者も集まって見送った。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命講習を受講したり、勉強会を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を年2回実施している。	消防署立ち合いで年2回避難訓練をしており、職員が順番に必ず出られるようにしている。また、以前近隣で火事があった時には、近くの障害者施設から助けが来て、利用者を外に連れ出してくれた。	災害時に備えて、地域のボランティアグループの組織化をして「お助け隊を作ってはどうか」との提案があったので、実現が待たれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その人に合った声掛けをするように心掛けている。排泄介助の際、タオルをかけるなどプライバシーの保護に努めている。	入所時に、利用者・家族と話し合いその人に合った呼び方をするようにしている。排泄介助などについては、他の利用者から離れて小声で話すように気配りをしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声掛けを行ったり、こちらからいくつかの提示をし、選んでいただいている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り、希望に添えるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その方にあった支援に努めている(髪飾り・マニキュアなど)		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	可能な限り行っている。定期的に食事作りをお願いしている。	おやつなどを作ったり、果物の皮むき、配膳、食器洗いなど、利用者にも出来ることを職員と一緒にしている。お寿司を取ったり、さんまパーティーをするなど、食事が楽しくなる支援をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分チェック表を活用し、個人にあつた水分など適切に支援できている。盛り付けや、一人ひとりが食事を楽しめるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	その方に合った方法、歯ブラシやガーゼ等を使い、介助させて頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その方の排泄のパターンに合った介助をさせて頂いている。	排泄チェック表をもとに、時間を見て誘導している。管理者も職員も、トイレで排泄することを大切にしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ホットタオルや、のの字マッサージ、体操、乳製品などを飲んで頂いている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴時は何種類かの入浴剤を使用するなど、気持ちよく楽しく入浴をして頂けるように心掛けている。	ほぼ毎日、職員と利用者が一対一で入浴している。30分程度時間をかけるので、職員がゆっくりと話を聞くコミュニケーションの機会になっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寝る前の足浴などで入居者さんが気持ちよく休めるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の名前や作用、副作用に気をつけ、スタッフ間で情報の共有をし内服をさせて頂いている。不安時は薬剤師に相談をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人個人にあった役割を持っていただき、いきいきと生活をしていただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	入居者さんやご家族の希望をかなえられるような支援をさせて頂いている。外出の際ご家族にも協力をさせていただいている。	近隣のコンビニなどに買い物に行ったり、散歩に出るなどしている。また、去年は計3回花見に出かけた。この他個人的に家族と食事に行ったり、娘の家を訪ねる利用者もいる。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金をご自分で管理できる方にはお渡ししている。スタッフが付き添い近くの農協やコンビニへ買い物へ行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族に電話をかけたり、知り合いの方に電話や手紙を書くお手伝いをさせて頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	音、光り、温度、湿度など不快にならないような空間づくりに気をつけている。	季節感を大切にしており、訪問当日はひな人形や季節の花が飾られていた。温度、湿度は適切に管理されており、日当たりのよい明るいリビングは、カーテンでこまめに光の調節をしていた。汚れなどに気づいたら、その場で掃除するとさらに良いと思われる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	スタッフが間に入れて頂き、話の橋渡しなどをさせて頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人やご家族と相談をしながら安全の範囲内で使い慣れたものや好みのものを生かして居心地良く過ごせるようにしている。	使い慣れた家具、仏壇や人形、写真、身の回りの品物などを持ち込み、居心地のいい居室になるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	大変そうな所はご本人に配慮をしながら介助させて頂いている。		